

強くなれ 中小

今どきの事業承継 ⑤

減ったとはいえず、今でも4割を占める親族承継。息子らに継がせたい経営者の思いは尽きない。

金属熱処理大手の東研サーモテック（大阪市）で5月、約30年ぶりに社長が交代した。川崎隆司氏（39）が社長に昇格し、父で先代の修氏（71）は会長に就いた。約5年前から親子で話し合った結果、2人とも代表権を持つ経営体制に落ち着い

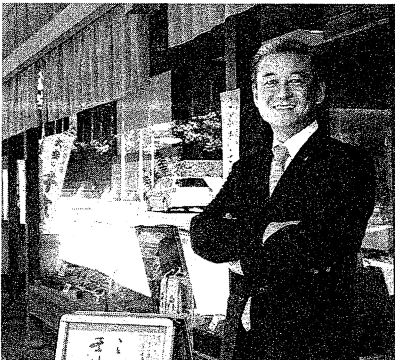
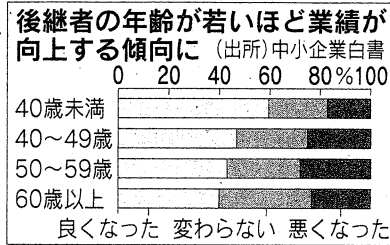
「家業」覚悟 早いうちに

意識向上へ大学も動く

親子でも経営方針巡って紛糾する事例には事欠かない。親子だからこそ言いづらいこともある。だが隆司氏は修氏との情報共有を欠かさない。相続税対策についても修氏は「悪いようにしないから、ちょっと待て」と応じた。腹を割った話し合いが円滑な世代交代につながる。

老舗は親族志向

関西には100年以上続く老舗が5013社（帝国データバンク調べ）あるが、一般企業よりも親族が継ぐ割合が高いとみられる。老舗の事業承



継に詳しい信金中央金庫地域・中小企業研究所（東京・中央）の鉢嶺実上席主任研究員は「長年続くのれんの重みを『誰かが引き継がなければ』という空気が醸成されている」と指摘する。そのうえで後継者候補に家業に「関心を持ってもらうこと」を

れた。折りに触れて由来を聞かされ、「いずれ社長に」とプレッシャーを受け続けた。

大学卒業後に銀行に入行した。業務に追われるなか、思い出したのが小さい頃に見聞きしたお客さんの「おいしい」という言葉だ。家業に戻ることを決め、2000年に大安に入社。14年に社長

白書では後継者の年齢が若いほど就任後の業績が良くなる傾向があると指摘する。40歳未満で就任した場合、5年後の業績が良くなったのは59・5%、60歳以上だと39・9%にとどまる。

早くから後継者の意識を高めようと大学も動く。関西学院大学ではオーナー企業の子息が参加する「ガチンコ後継者ゼミ」を開講している。大阪産業創造館（大阪市）の山野千枝氏は「親は子供に苦勞をさせたくないが、継いでほしいと思っ

向き合ってもらうことをだ。社会学部4年の池上竜亜氏（22）の家業は自動車部品商社だが、創業者の父は継がせる気がないといい。「苦勞してつくった会社がそのままなくなってもいいの」と悩んでいる。来春からは化学メーカーで働く。「同じ境遇の学生と知り合い相談できる相手があったらいい」。昔は工場や店舗が自宅と隣接する家も多かったが、現在は職任分離が増えていく。親族承継の最も大事な準備は早くから家業の意義を身をもって体験し、親子で向き合うことなのかもしれない。

大安の大角社長は小さい頃の良き思い出が家業を継ぐきっかけとなった

交代まで6年

中小企業基盤整備機構によると2代目以降の経営者が後継指名された平均年齢は35・5歳だが実際の交代は41・7歳だ。意思疎通から6年余りかかる。世代交代で新たな

継ぐかどうかを今決めることではない。将来に備えて学生時代から家業と

中尾良平、伊藤大輔、川上梓、上田志晃、淡海美帆が担当しました。

近畿